リリース先：大阪科学・大学記者クラブ、文部科学記者会、
科学記者会、厚生労働記者会、厚生日比谷クラブ

2021 年 9 月 30 日
Ｎｏ．０００１７０

PRESS RELEASE

関西医科大学
KANSAI MEDICAL UNIVERSITY

本学附属病院で難治性潰瘍に PRP 療法開始

多血小板血漿療法、関西の大学附属病院で 3 施設目

【本件のポイント】

- **本学附属病院（枚方市）で PRP 療法を開始**
- **治療困難だった難治性の慢性的な創傷に対する新しい選択肢**
- **10 月から毎週月曜日午前外来で患者さんのエントリー開始**

学校法人関西医科大学（大阪府枚方市 理事長・山下敏夫、学長・友田幸一）附属病院（同市 病院長・松田公志）形成外科（診療部長・覚道奈津子（関西医科大学形成外科学講座主任教授））は 10 月から、難治性潰瘍に対する多血小板血漿療法（以下「PRP 療法」）について、関西で 3 つ目の実施施設として患者さんのエントリーを開始します。これは、今までの治療法ではなかなか回復しない創傷（外傷、床ずれ、糖尿病性潰瘍、静脈鬱滞性潰瘍、膠原病・リウマチ合併潰瘍など）に対して、患者さん自身の血小板を通常の 3～7 倍程度に濃縮した PRP を患部に塗布し、サイトカイン※1 の大量放出による治療効果を狙った治療法です。2020 年 4 月に保険適応が認められた先進的な治療法ですが、施設基準や定められた機関の審査などをクリアしなければ実施することができません。

光井 俊人　助教

本学附属病院形成外科は過去に蓄積してきた基礎・臨床研究の知見を活かし、自らの自然回復力を利用する安全性の高い PRP 療法をより効果的に、安心して治療を受けていただける体制を構築しました。PRP キットは簡便で血小板濃縮率の高い Condensia®（コンデンシア）システム（京セラ株式会社製）を用います。

関西の大学附属病院では 2 施設※2 でしか実施できていなかったこの治療法を大阪府北河内エリアでも提供し、難治性潰瘍に悩む一人でも多くの患者さんに安全で安心できる PRP 療法をお届けしたいと考えています。

覚道 奈津子　教授

■関西医科大学附属病院　PRP 療法概要	
診療日 （PRP 治療予定の患者様エントリー）	毎週月曜午前
担当医	光井 俊人　助教 （形成外科）

【本件取材についてのお問合せ】
学校法人 関西医科大学 広報戦略室（岡田・畑森）
〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1
電話：072-804-2128　ファクス：072-804-2638　メール：kmuinfo@hirakata.kmu.ac.jp

リリース先：大阪科学・大学記者クラブ、文部科学記者会、
科学記者会、厚生労働記者会、厚生日比谷クラブ

PRESS RELEASE

2021 年 9 月 30 日
Ｎｏ．０００１７０

関西医科大学
KANSAI MEDICAL UNIVERSITY

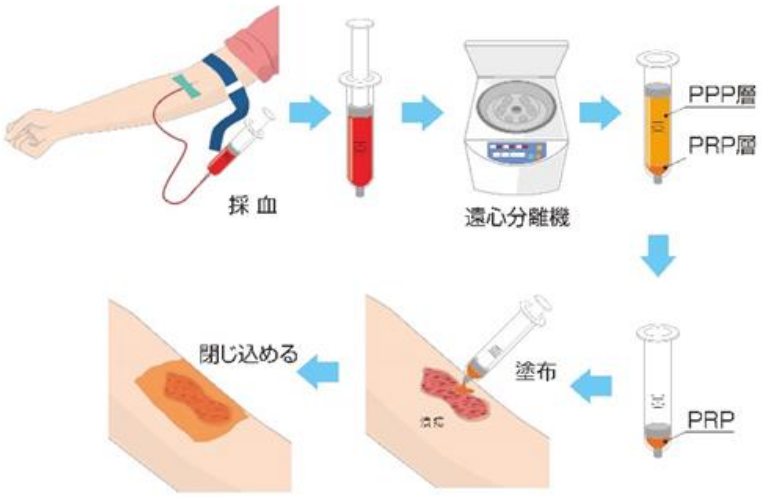
別　添　資　料

＜本リリースの背景＞

現在、PRP 療法はプロ・アマチュア問わずスポーツ選手の外傷・障害治療や、高齢者の変形関節症、歯槽骨・歯肉の再生だけでなく、美容形成外科の分野でも導入が進んでいます。しかし、2014 年に施行された「再生医療等の安全性の確保等に関する法律」によって法規制の枠組みに収められ、再生医療の実施に際して実施施設（病院）は厚生労働省に届け出なければなりません。患者さん自身の組織を培養、濃縮して行われる治療法のため比較的安全性は高いといえますが、関西の大学附属病院で実施できるのは 2 病院※2 に留まっていました。本学形成外科はこれまでも PRP 療法の有効性に着目し、臨床応用に向けた研究活動を展開していましたが、この度学内の各種審査委員会の承認と厚生労働省への届け出が完了し、保険適用下での臨床提供が可能となりました。

＜PRP 療法の流れ＞

まず、患者さんの血液を 20cc 採取します。その後、遠心分離機に複数回かけて血小板を通常の 3～7 倍程度まで濃縮。その途中に血漿層から凝固因子を抽出し、濃縮した血小板（液体）に添加することでゲル状の PRP を作成します。そうしてできた PRP を、清潔にした患部へ乗せ、創傷被覆材を貼って経過を観察します。



作成の所要時間は 2～3 時間程度で、作成後 45 分～8 時間に最も多くサイトカインが放出されることから、事前に作成して保管することはできません。また、同治療の実施は 1 週間に 1 回、最大でも 4 週間 4 回までとなっています。入院で治療を受けられる方であれば費用は一般的な入院費と同程度で、最短 1 週間の入院で 1 回の治療が完了します。

＜PRP 療法とは＞

一般的に、何らかの力が加わって皮膚が裂けて出血した場合などの際、傷口に血液中の血小板が集まってきて出血を止め、傷ついた組織を再生することが知られています。これは、集まった血小板が

【本件取材についてのお問合せ】
学校法人 関西医科大学 広報戦略室（岡田・畑森）
〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1
電話：072-804-2128　ファクス：072-804-2638　メール：kmuinfo@hirakata.kmu.ac.jp

細胞の増殖・分化調整機能などをもつサイトカインを放出し、白血球の数を増やしたり細胞の増殖を促したりするためです。PRP 療法では、この血小板の組織修復・再生促進機能に着目。患者さんの血液から血小板を抽出・濃縮し、傷口部分に注入・貼付することで人工的に血小板の機能を強化・促進する治療法です。これまで損傷した靭帯や腱、軟骨、歯肉などに直接 PRP を注入することで、スポーツ医学や整形外科、歯科、美容整形分野において普及が進んでいました。2020 年 4 月からは難治性潰瘍に対する保険適応が認められ、その安全性・有効性が確立されてきました。

自分の組織を使う治療法のため、拒絶反応や依存性などの副作用が理論上少なく、過去にも重篤な副作用は報告されていません。但し、もともとの血小板の活性が高いまたは低いといった個人差がそのまま治療効果に影響を及ぼすと考えられており、全ての患者さんに対して高い効果をもたらすとは限りません。痛み止めや湿布薬の処方、検査も自費となりますので、注意が必要です。

用　語　解　説

※1「サイトカイン」

細胞から分泌される低分子タンパク質の一種で、生理活性物質の総称。生理活性タンパク質。細胞と細胞との相互作用に関係して、周囲の細胞に影響を与える物質です。放出される細胞によって働きは異なりますが、完全には解明されていません。白血球の分泌、免疫系の調整を行うインターロイキンや、ウイルス・細胞の増殖を抑制するインターフェロン、血液の産生に関連する造血因子、特定の細胞に増殖を促す細胞増殖因子などが知られています。

※2「関西の大学附属病院」

これまで Condensia®（コンデンシア）システムを用いた PRP 潰瘍治療は、関西の大学附属病院では京都府立医科大学附属病院（京都府京都市）、近畿大学病院（大阪府大阪狭山市）のみで保険適用が可能でした。

＜本件 PRP 療法に関するお問合せ先＞
学校法人関西医科大学
附属病院形成外科
◎光井　俊人（形成外科助教）
　覚道　奈津子（診療部長・関西医科大学形成外科学講座主任教授）
大阪府枚方市新町 2-5-1

【本件取材についてのお問合せ】
学校法人 関西医科大学 広報戦略室（岡田・畑森）
〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1
電話：072-804-2128　ファクス：072-804-2638　メール：kmuinfo@hirakata.kmu.ac.jp